

団体間で協働化できる取組（案）【人材育成分野】

1. 背景

- 「富県宮城推進会議」において、経営者としての資質向上と人的ネットワーク形成により、次代の経営幹部層の育成が必要との議論があった。
- 産業の成長のためには、産業界を中心とした地域全体による戦略的な人材育成が必要である。
- 技術者や技能者などの育成に関する取組については、これまで様々な団体で実施されているが、ものづくり産業の競争力の維持・強化のためには、従業員の育成に限らず、中小ものづくり企業の、特に次代の経営幹部人材の育成が地域産業基盤の形成上不可欠である。
- 新たに進出が計画されている大手メーカーとの取引拡大に大きな期待がある。

2. 目的

ものづくりを支える団体と協働して、次世代を担う経営幹部人材の経営能力の向上及び人的ネットワークの形成を図るとともに、最終製品メーカー等に対する取引開始・拡大を図る。

3. 概要

- (1) 事業名 (仮称) ものづくり・ひとづくりモデル事業
- (2) 想定協働団体 (社)みやぎ工業会 等
- (3) スケジュール
 - ・平成20年4月 参加者募集開始
 - 5月 (仮称) ものづくり・ひとづくり塾開催
 - 平成21年3月 (仮称) ものづくり・ひとづくり塾閉校
- (4) 事業費 県では、「富県創出県民総力事業」における富県創出モデル事業として200万円を計上。また、参加者からも実費等応分の負担を求める。
- (5) 事業概要
 - ・ 対象業種は、高度電子機械産業（半導体関連産業）又は自動車関連産業を想定し、対象業種の県内中小企業において次代を担う経営幹部20～30名程度を募集。
 - ・ メインアドバイザーを中心とした参加者間の交流促進事業等のグループ活動を1年間同一メンバーで実施。
 - ・ グループ活動内容の例としては、技術経営セミナー、生産管理方式セミナー、業界の技術・市場動向研修、他社の商品分析、先進企業・参加企業間訪問等。
 - ・ グループ活動は月1回のペースで年間10回程度を予定し、その内容に応じて必要な講師を派遣。